

特集

2年連続〈10勝〉を記録

日本ハム
ファイターズ
鹿部町出身

解剖する伊藤大海投手

ジャーナリスト
黒田伸

今季のリーグ優勝の可能性が9月3日に消滅しただけでなく、開幕以来一度も浮上できずに最下位に沈んだままのプロ野球・日本ハムファイターズ。新庄剛志ビッグボスの去就も取りざたされる中、気を吐いているのが2年目の伊藤大海投手だ。8月31

日に25歳の誕生日を迎え、早くもエースの風格さえ漂う伊藤の「大物ぶり」を故郷の漁業のまち鹿部町で探った。

(9月6日現在、文中一部敬称略)



▲9月2日の対楽天戦で2年連続10勝を挙げた伊藤大海投手(いずれもテレビ中継画面から)

浜大洋ホエールズ(当時)に入団した故・盛田幸妃選手とは親類に当たる。

野球少年団で頑張る伊藤大海のことを「ひろ君」と呼んでいたが、今はあの姿からは想像できないほどの気迫を感じるという。

伊藤は9勝目を挙げてから3度の登板で勝ち星を挙げられず、ようやく2日に4度目の挑戦で2ケタ勝利を達成した。

9勝と10勝では大違いだ。日ハムで新人から2年連続2ケタ勝利

したのは、1987(昭和62)年、88年の西崎幸広以来のこと。

伊藤は試合後のインタビューで「意識していなかったと言ったら嘘になる。何とか達成できてほっとしています」と表情を和らげた。

勝利を呼び込んだのは気迫のこもったピッチング。この試合、再三得点圏に走者を背負

思い起こされるのが金メダルを獲得した昨年の東京オリンピックク

「町の誇り」と盛田町長

「マウンド度胸があるし、気迫のあるピッチングをする。町の誇りですよ」

昨年5月に移転したばかりの役場新庁舎の町長室で盛田昌彦町長(50)は、笑顔を見せた。訪れたのは伊藤が10勝目を挙げた9月2日の楽天戦の前の8月末だ。「もう、ひろ君なんて気安く呼ばませんが、小学生のころは、これほどスケールの大きい投手になるとは思いませんでした」

盛田町長は函館有斗高校野球部出身で甲子園のグラウンドには立ってなかった。2年先輩で、ドラフト1位で横

い、一打出れば逆転される苦しい場面が続いた。

6回は無死一、二塁で内野陣が二つ目の併殺を取ると、雄叫びを上げた。

伊藤は「見ている方にとっては心臓に悪い打球内容だったと思います。でも、僕自身気持ちを抑え、自分を冷静に捉え、打者に全神経を集中できるのが伊藤の強みだろう。」

東京五輪での強烈な印象

の度胸の座ったマウンドだ。

伊藤は、準決勝の韓



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)